

## 令和7年度 学校自己評価 高等課程(2024.9～2025.8)結果

### 評価項目の達成及び取組状況

【目標達成率】 A：80%～ B：60%～79% C：40%～59% D：40%未満

#### (1) 教育理念・目標 (学校全体)

評価項目	達成値
1 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	A
②学校における職業教育の特色は定められているか	A
③理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、生徒・保護者等に周知されているか	A
④教育目標、育成人材像は、卒業後の社会のニーズに向けて方向づけられているか	A

##### ① できていること、維持すべきこと

- ・多角的な情報発信による理念の浸透：SNS、体験入学、校長による直接説明など、多様なチャネルを通じて「学び直し」や「検定取得」という教育方針を周知し、ステークホルダーとの強固な信頼関係を築いています。
- ・個に応じた愛情教育の展開：不登校経験者や特性のある生徒を含め、一人ひとりの背景に寄り添い、卒業まで導く包括的なサポート体制を確立しています。
- ・自己肯定感を育む独自の教育プログラム：日々の「誓いの言葉」や成功体験を積み重ねる授業を通じ、生徒が基礎学力を定着させ、将来の目標を自ら描けるよう支援しています。
- ・社会に貢献する人材育成の土台作り：1年次からの職場体験や企業連携を通じ、「就職に強い」という実績を維持しながら、社会人としての心構えを早期に育成しています。

##### ② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・社会人基礎力定着に向けた生活習慣の再構築：マナーや時間厳守を「社会で生き抜く力」と捉え、教職員が模範となりつつ、日常生活全体で指導を強化する「マナー啓発活動」を推進します。
- ・教育理念の現代的アップデートと共有：時代の変化に合わせ、教職員間で教育理念の解釈を常に深め、生徒への一貫した高い質の教育サービスを提供できるよう、定期的な意識改革を実施します。
- ・家庭－学校間の連携強化による理解促進：入学前からの丁寧な対話を通じ、本校の教育方針への深い理解を促すと同時に、行事等への保護者の参加を支援し、共に生徒を育てる環境を整備します。
- ・専門的指導スキルの向上と知見の共有：多様化する生徒のニーズに対応するため、教職員の資格取得や専門研修を奨励し、組織全体で指導ノウハウを共有する一貫した体制を構築します。

#### (2) 学校運営 (運営委員)

評価項目	達成値
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
②事業計画に沿った運営方針が策定されているか	A
③学校として、また地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	A
④教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A
⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B
⑥卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	A
⑦法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
⑧個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
⑨学校自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	A
⑩学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A

##### ① できていること、維持すべきこと

- ・戦略的な広報活動と教育の可視化：タイムリーな情報発信により、教育活動の透明性を高め、入学希望者へ本校の魅力を効果的に伝えています。
- ・地域社会との互恵的な連携体制：生徒によるボランティア活動や災害時の地域支援体制を通じ、社会に開かれた学校としての役割を積極的に果たしています。
- ・高度な情報セキュリティとコンプライアンスの維持：個人情報保護に関する厳格な管理

体制を構築し、物理的な環境整備（執務スペースの分離等）と教職員の意識向上の両立を継続しています。

- ・組織的な PDCA サイクルの実践：自己評価に基づく迅速な改善活動を各部会で展開し、学校運営の質を継続的に向上させる体制が定着しています。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・情報管理体制のさらなる高度化：最新のガイドラインに基づき、デジタルデータの取り扱いルールを再徹底し、継続的な監査を通じてより安全な情報管理環境を整備します。
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）による校務効率化：ICT ツールの活用を深化させ、業務のペーパーレス化と迅速な情報共有を推進することで、生徒と向き合う時間を最大化できる組織へと進化します。
- ・社会貢献活動の多様化と地域連携の深化：既存の活動に加え、本校の特色を活かした新たな地域貢献プログラム（IT 講座等）を検討し、生徒が社会と関わる機会をさらに拡充します。
- ・将来のリスクを予見する「予防的運営」の確立：現状に満足することなく、社会の変化やリスクを先読みした研修を実施し、教職員一人ひとりが自発的に改善に取り組む組織風土を醸成します。

(3) . 教育活動（教務）

評価項目	達成値
①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A
②確かな学力の育成、学力向上につなげることができているか	A
③カリキュラムは体系的に編成されているか	A
④コース制によって特徴を活かした教育活動が行われているか	A
⑤授業評価の実施・評価体制はあるか	B
⑥成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	B
⑦資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
⑧資格取得率の向上が図られているか	A
⑨施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B
⑩教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	B

① できていること、維持すべきこと

- ・習熟度に応じた「学び直し」の徹底支援：中学時の学習に不安を持つ生徒に対し、親切丁寧な指導を行うことで、学習習慣の定着と学ぶ喜びを実感させています。
- ・圧倒的な検定取得実績を支える指導体制：放課後の施設開放や個別補習など、生徒が目標とする資格取得に意欲的に取り組める手厚い環境を維持しています。
- ・個別最適化された ICT 学習環境の提供：デジタル教材の導入により、生徒一人ひとりのペースに合わせた学びを実現し、自発的な学習を促進しています。
- ・コース制による教育の展開：好きなことを学習する、または検定を取得させるコースを提供し、生徒の主体性を引き出しながら「できる自信」を育てています。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・公平性と納得感の高い成績評価システムの構築：多様な経済状況や学習機会に配慮し、誰もが正当に努力を評価される透明性の高い評価基準の策定と周知を徹底します。
- ・外部リソースを活用した指導力向上研修の拡充：教職員が外部研修へ積極的に参加できる体制を整え、最新の教育手法を授業に還元することで、教育の質のさらなる高度化を図ります。
- ・ICT 教育インフラの計画的更新と活用促進：学習効果を最大化するため、ハード・ソフト両面での設備更新を計画的に進め、全ての生徒が ICT を自在に活用できる環境を整備します。
- ・習熟度別授業の導入による学習満足度の向上：生徒の学力や興味に応じた柔軟なカリキュラム編成（レベル別授業等）を検討し、全ての生徒が知的好奇心を満たせる授業を展開します。

#### (4) . 生徒指導等 (生徒指導)

評価項目	達成値
①基本的な生活習慣の確立のために取組が行われているか	A
②生徒・保護者が相談しやすい体制は組まれているか	A
③退学率の低減が図られているか	B
④生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	B
⑤生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	A

##### ① できていること、維持すべきこと

- ・多層的な相談・サポートネットワークの構築：外部カウンセラー等と教職員が密に連携し、生徒や保護者がいつでも安心して相談できる体制を維持しています。
- ・自律性を育む多彩な「居場所」の提供：生徒の自主的な活動（部活動等）を尊重し、安心感のある学校生活を提供することで、極めて低い退学率を実現しています。
- ・社会貢献を通じた豊かな人間性の醸成：多様なボランティア活動への参加を支援し、他者への貢献を通じて社会性と責任感を育てています。
- ・良好な家庭－学校関係の継続：密な連絡体制により、保護者との強固な信頼関係を維持し、生徒の成長を多角的に見守る体制を整えています。

##### ② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・「社会を意識した」自律的な生活習慣の確立：将来のキャリア形成を見据え、遅刻・欠席の抑止や基本的なマナー習得を、生徒自身がその意義を理解して取り組めるよう指導を高度化します。
- ・健康管理・支援体制の充実と専門性の強化：生徒の心身の健康を守るため、専門スタッフの来校機会の拡充を検討し、より高度な特別支援・健康管理が行える体制を目指します。
- ・予防的指導・危機管理体制のアップデート：SNSトラブル等の現代的課題に対し、問題が起こる前の「予防教育」を主軸とした組織的対応マニュアルを整備し、生徒の安全を先回りして守ります。
- ・多様なニーズに対応した規程の適正化：社会情勢やジェンダーへの配慮を含め、身だしなみ等の校則を時代に即して適宜見直し、全教職員が統一された基準で誠実に指導を行います。

#### (5) . 進路指導 (進路指導)

評価項目	達成値
①個々に見合った進路指導ができているか	A
②就職率の向上が図られているか	A
③保護者と適切に連携しているか	A
④職場体験ができる教育体制を整備しているか	A
⑤生徒に寄り添った進路指導ができているか	A
⑥卒業生への支援体制はあるか	B

##### ① できていること、維持すべきこと

- ・早期キャリア意識形成の推進：1年次からの多様な職場体験や企業見学を通じ、生徒が将来を主体的に考える機会を豊富に提供しています。
- ・徹底した伴走型個別指導：履歴書作成から面接対策まで、担任と進路指導部が一体となり、納得のいく進路決定まで粘り強く支援しています。
- ・広範な外部ネットワークとの強固な連携：地域企業、ハローワーク、姉妹校との密な連携により、生徒の適性に合った多様な選択肢を確保しています。
- ・卒業後を見据えた継続的サポート：進路決定後のフォローアップや卒業生への相談支援を行い、長期的なキャリア形成を支えています。

##### ② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・社会での適応力を高める「生き抜く力」の育成：早期離職の防止を念頭に、在学中から忍耐力や責任感を養うプログラムを強化し、社会へ出るためのマインドセットを構築します。
- ・生徒の主体性を引き出すキャリア教育の深化：受動的な進路選択から脱却し、生徒自ら

- が情報を収集・判断して動けるよう、1年次からの意識付けをさらに徹底します。
- ・進路支援体制の組織的拡充：進路指導事務の効率化やスタッフの役割分担を最適化し、生徒一人ひとりに対してこれまで以上に丁寧な時間を割ける体制を整備します。
  - ・多様な背景を持つ生徒への進路支援の専門化：就労支援機関との連携や、個々の特性に応じた就職支援プログラムを拡充し、保護者とも連携して将来の安心をサポートします。
  - ・進路情報の透明化と数値目標の共有：就職率等の目標値を明確化し、保護者への情報周知をさらに徹底することで、学校・生徒・家庭が一体となった進路活動を推進します。

(6) . 環境整備等 (総務)

評価項目	達成値
①安全・安心な学習環境づくりができているか	A
②防災に対する体制は整備されているか	A
③式典、表彰、備品管理・発注は適正に行われているか	A

- ① できていること、維持すべきこと
- ・安全で快適な学習空間の計画的整備：LED 化、空調整備、ICT 環境の拡充など、生徒の健康と安全を最優先した施設改善を継続的に実施しています。
  - ・高度な防災・防犯体制の構築：定期的な訓練や AED 講習、防犯カメラの設置を通じ、教職員と生徒の危機管理意識を高く維持しています。
  - ・清潔感あふれる校内環境の保持：定期的な点検と清掃により、歴史ある校舎を常に清潔で安全な状態に保ち、生徒が落ち着いて学べる環境を提供しています。
  - ・適正な備品・資産管理の徹底：必要な備品を欠かすことなく、かつ無駄のない適切な管理・運用を行うことで、安定した教育活動を支えています。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・中長期的な施設更新計画の策定と実施：施設の老朽化箇所を早期に把握し、優先順位に基づいた計画的な修繕・改修を行うことで、さらなる安全・安心な環境を構築します。
  - ・実践的な「予防的」防災シミュレーションの強化：災害時の帰宅困難対応や登下校時の安全確保など、あらゆるリスクを想定した具体的な行動計画を策定し、生徒・教職員の対応力を高めます。
  - ・環境負荷を低減するコスト意識の共有：エネルギー効率の向上や消耗品の適正使用について組織的な啓発を行い、持続可能な学校運営に資する環境意識を教職員・生徒間で共有します。
  - ・安全点検プロセスの透明化と共有：点検の実施状況や結果を教職員間でより明確に共有し、情報の風通しを良くすることで、問題の早期発見と迅速な改善に繋がります。

(7) . 生徒の受入れ募集 (渉外)

評価項目	達成値
①生徒募集活動は、適正に行われているか	A
②生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	A
③学納金は妥当なものとなっているか	A

- ① できていること、維持すべきこと
- ・多様なニーズに寄り添う個別相談体制：中学生や保護者の不安の一つひとつ丁寧に伝える体制を整え、高い満足度と入学者数の確保を実現しています。
  - ・本校の魅力を伝える体験プログラムの充実：ターゲットに合わせた多様な体験授業を提供し、全教職員が協力して本校の「温かさ」と「楽しさ」を効果的に伝えています。
  - ・地域の中学校との強固な信頼関係：積極的な中学校訪問や丁寧な状況報告を通じ、本校の教育成果に対する高い評価と信頼を維持しています。
  - ・戦略的な経済支援制度の導入：独自の入学金免除規定や授業料設定により、意欲ある生徒が学びの機会を得られるよう経済的負担に配慮しています。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・入学後のミスマッチを防止する情報提供の適正化：本校が提供できる教育内容や将来のキャリア像について、より正確かつ具体的な説明を徹底し、生徒自身の強い入学意思を育みます。

- ・革新的な募集アイデアの創出と組織的参画：既存の手法に捉われず、全教職員がアイデアを出し合い、部活動や生徒会とも連携した斬新な広報活動を展開します。
- ・教育成果の「見える化」による魅力発信の強化：コースごとの作品展や実績をより積極的に公表し、在校生の活躍を通じて、将来の自分をイメージできる情報発信を推進します。
- ・アンケート結果を活用した継続的なサービス改善：来校者の声を迅速に教職員全体へフィードバックし、募集活動だけでなく、日々の学校運営全体の質向上にダイレクトに反映させます。

(8) . 財務 (事務室)

評価項目	達成値
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	A
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
③財務について会計監査が適正に行われているか	A
④財務情報公開の体制整備はできているか	A
⑤生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	A

① できていること、維持すべきこと

- ・健全かつ強固な財政基盤の確立：安定した入学者数の確保により、教育環境の向上と安定した運営を支える確かな財務状況を維持しています。
- ・きめ細やかな経済的支援の実施：奨学金や減免制度の活用を丁寧に案内し、経済的な困難を抱える生徒への迅速かつ柔軟な事務対応を徹底しています。
- ・高い透明性を誇る財務公開体制：ウェブサイトでの財務状況公開や定期的な外部監査を通じ、明朗で信頼される経営体制を維持しています。
- ・将来を見据えた戦略的投資の継続：財政的な安定を基盤に、ICT 設備や防犯設備の更新など、生徒の学びの質を直接高めるための再投資を積極的に行っています。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・全学的なコスト意識の改革と経費の最適化：物価高騰等の社会情勢を見据え、エネルギー消費の抑制や資源の有効活用など、組織一丸となって効率的な予算運用を推進します。
- ・中長期的な修繕計画に基づく予算の重点配分：施設・設備の更新順位を明確化し、計画的に予算を投入することで、将来にわたって安全で魅力的な教育環境を保証します。
- ・教職員の経済支援制度に関する知識の深化：制度への理解を深めるための内部研修を実施し、担任や相談窓口が、支援を必要とする生徒へよりの確かな案内をできる体制を整えます。
- ・持続可能な経営モデルの構築：少子化等の将来リスクに対応するため、学校運営を「質の高いサービス」と捉え、選ばれ続ける学校であり続けるための戦略的な財務運営と現場の成果を追求します。